第470号
令和３年
7月27日

すまいるたうん

発行元
東京新聞
南千住専売店
TEL3803-1781
発行責任者
鬼塚　佳代子
TEL090-2657-0300

子ども美術館イロトリドリが南千住で開催されます。

「様々な特性や障がいのある子どもたちの世界、個性豊かな世界を感じてみませんか。」

凸凹の子と一緒に育つ会『ひだまり』は、発達に特性や障がいのある子どもたちによる作品展、子ども美術館イロトリドリをジョイフル三の輪商店街にあるギャラリーフォトスポットで開催致します。

凸凹の子と一緒に育つ会『ひだまり』は、発達に特性や障がいのある子どもを「凸凹（でこぼこ）の子」と呼び、子育て交流サロン『ilona（イローナ）親子の縁側』の活動拠点でもある【みんなのお家ilona】において、その親子たちが交流し共生共育できる親子の居場所作りを行っています。

「枠にはまらないからできる」

描いた子どもたちは、自閉スペクトラム症であったり、知的障がいや発達障がいがあったり、それぞれ特性があります。この特性があるから、個性的な発想ができます。

「色遣いが美しい。発想がすごい」

先月、小台駅近くの「生活茶屋」で展示された絵の数々を見た時に、発想の自由さと色の美しさに久しぶりに心が揺さぶられました。一枚一枚、丁寧に絵の説明をして下さった凸凹の子と一緒に育つ会『ひだまり』代表の氏家さんの子どもに対する優しい思いに触れ、心が柔らかくなりました。一心不乱で描いている子どもの姿と後ろから静かに見守るお母さんの温かさが絵から感じ取れます。

「みんな違っていい」

違うことは才能だと理解できました。自分が描きたいものを描いている。自分の思いを自由に表現する力が、作品からはみ出してエネルギーを発しています。無垢な美しさと力強さがそこにありました。

「こども美術館イロトリドリ」で、湧き水のようにあふれ出る才能に触れて心の森林浴をしてみませんか。

絵を描きたいという気持ちでいっぱいで楽しんで書いています。色を選んだり並べる順番を考えたりするのが好きです。

子ども美術館

イロトリドリ
iroToriDri

日時：8月2日（月）～8月14日（土）9時～19時
日曜休館
場所：ジョイフル三ノ輪商店街（荒川一中寄り）
Gallery　Photo　SPOT（南千住1-22-10 ）
入場無料
後援：荒川区教育委員会
主催：iroToriDori
凸凹の子と一緒に育つ会『ひだまり』

猫ちゃんのあそび
猫ちゃんが好きだから、色んな素材を使って表現。プチプチで首輪や目を表現しました。

折り紙をびりびりに破いて小さく丸めたものをのり付けして偶然できたもの。